

心を病んだ人々は、なぜ閉じ込められなければならないのか？

精神の病とは…、人間の尊厳とは…、いま突きつけられる問いかけ！

呉秀三（くれしゅうぞう）は、今から百年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として、異例の社会的な取組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。その土台となった報告書『精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的観察』を1918年に提起し、多方面へ働きかけた。それから1世紀の年月が過ぎた今、精神障害者の問題はもうなっているのだろうか？精神障害者をめぐる問題は一つの国の在り方を左右する重大なものであり、欧米でも改革が進められている。何故なら、人口の1%プラスアルファが精神疾患を発症するという前提のもと、全ての国民が理解と対処を迫られているからである。しかし、古い時代から現在に至るまで、精神病は誤解と偏見、差別の対象となり、この病を持つ人々と家族は苦しみと犠牲を強いられている。2017年12月の「寝屋川市監禁死亡事件」、2018年4月の「兵庫県三田市監禁事件」の報道は、多くの人々に衝撃を与えた。しかし、このような事例はまだ少なからず存在すると関係者は指摘する。こうしたタイミングで、この課題に一貫して取り組んできた精神医療保健の専門家組織である公益財団法人日本精神衛生会と、障害者福祉の土台を支えて40周年を迎えるきょうされん（旧称：共同作業所全国連絡会）が提携して製作したのが本作である。



松沢病院の呉秀三胸像



海外ロケ（ウィーン）

呉秀三研究の第一人者・岡田靖雄先生（精神科医療史研究室代表／元・松沢病院医師）、「座敷牢」問題の調査研究を続ける橋本明先生（愛知県立大学教授）、日本の精神科医療のトップに位置する都立松沢病院の齋藤正彦院長というキー・パーソンへのインタビューを軸に構成された本作品は、これまでの100年を見つめ直し、これからの100年を考える貴重な映像の素材と言えるだろう。

作品の中に登場する資料には、現存する2冊のみの「私宅監置」報告書は岡田先生の手元に、もう1冊は国会図書館！）、呉秀三の初めての著作の初版本、家族にあて欧州から送った絵葉書（既に所在不明!?!）、秘蔵されていた数枚の写真（東大医学図書館に保管）などがある。日本で初公開！呉秀三の欧州留学先での足跡 彼が1900年前後に留学・視察したベルギー

とオーストリア（ウィーン大学）に残されている「自筆の署名」を求めて海外ロケを敢行し、彼の下宿アパートもカメラに収めてきた。

きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT とは・・・

- ◆聞こえない仲間が安全で安心して働ける作業所づくり
- ◆聞こえない・聞こえにくい人が地域の人とともに安心して福祉サービスを利用し、交流できる施設づくり
- ◆聞こえない子どもや家族が手話でのコミュニケーションを楽しみ、専門的な相談支援を受け、将来の目標を見つけられる拠点づくり **をめざしています。（聴覚障害者団体・関連団体 15 団体で推進中）**

共同作業所神戸ろうあハウス、共同作業所神戸ろうあハウス家族の会、神戸ろうあハウスデイサービスセンター、特定非営利活動法人神戸ろうあ協会、特定非営利活動法人神戸ろうあ協会後援会、公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会、社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会、兵庫手話通訳問題研究会、神戸市手話サークル連絡会、兵庫県手話サークル連絡会、神戸市難聴者協会、兵庫県立神戸聴覚特別支援学校同窓会、特定非営利活動法人兵庫県難聴者福祉協会、社会福祉法人神戸市身体障害者団体連合会、ひょうご聴障ネット

聴覚障害者への理解と神戸市における聴覚障害者福祉施設建設実現への願いをさらに広めていきたいと思っております。みなさまのご参加をお待ちしています。

問合せ・申込みは 神戸市聴覚障害者福祉施設建設推進委員会（神戸ろうあ協会内）まで

e-mail (hitoribotch_0@yahoo.co.jp) か FAX (078-371-3052) でお願ひします。
折り返し連絡させていただきます。

■各構成団体でもチケット申込み受付けます ■定員 300 名で締切ります